

病防第82号
平成29年9月26日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況と防除対策（技術情報第9号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考としてご活用ください。

記

9月上旬の屋外のコナジラミ類の密度は平年並からやや低いものの、タバココナジラミのTYLCV保毒虫数は平年並であるため、従来どおり黄化葉巻病の防除を徹底しましょう。

1 調査結果

- 1) 9月5～9日に、冬春トマト栽培地域の屋外に設置した黄色粘着板で捕獲されたコナジラミ類の頭数は平年並～やや少であった（表1）。
- 2) 9月4～11日に、冬春トマト栽培地域の屋外に設置したトマト苗トラップで捕獲したタバココナジラミのTYLCV保毒虫率は、熊本市では15.0%(平年3.7%)と平年に比べ高く、玉名市は3.3%(平年5.5%)で平年並であった。なお、八代市は検定数が少なかったため平年値との比較はできなかった（表2）。
- 3) 感染リスクの指標である屋外保毒虫数（上記の捕獲頭数およびTYLCV保毒虫率から試算）は、熊本市は0.07(平年0.08)、玉名市は0.03(平年0.18)で平年並であった（表3）。
- 4) 9月下旬の巡回調査において、すでに定植されている冬春トマトで、タバココナジラミの寄生が1複葉あたり0.03頭確認された。

2 防除対策

- 1) ハウスの開口部（サイド、谷部など）には目合いは0.4mm以下の防虫ネットを設置する。すでに設置しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無い点検を行い、必要に応じて補修する。
- 2) ハウス内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
- 3) 野外から飛び込んだタバココナジラミを施設内で定着させないため、11月頃までは成虫を主体とした薬剤防除を行う。
農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を厳守する。
- 4) ハウス内の発病株は感染源となる。見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。
- 5) 抵抗性品種であっても感染源と成り得るため、感受性品種と同様に防除を行う。
- 6) ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。
- 7) 野良生えトマトは、重要な伝染源となるので抜き取り土中に埋める等適正に処分する。

表 1 屋外におけるコナジラミ類の捕獲頭数

地点名	日あたり捕獲頭数 (頭/日/枚)						平年値
	本年	2016	2015	2014	2013	2012	
熊本市	0.49	0.67	0.17	4.81	0.88	0.47	1.40
玉名市	0.76	8.09	0.43	2.24	1.99	1.67	2.88
八代市	0.07	1.73	0	0.05	0.15	1.85	0.76

注) 捕獲期間は9月5～9日。
 黄色粘着板(10cm×10cm)を1地点あたり3～12枚設置。
 平年値は2012年から2016年の5カ年平均。

表 2 屋外で採集したタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況

地点名	保毒虫率 (%)						平年値
	本年	2016	2015	2014	2013	2012	
熊本市	15.0(60)	6.7(60)	-	5.4(56)	2.8(36)	0	3.7
玉名市	3.3(60)	6.7(60)	4.2(48)	12.5(24)	4.0(50)	0	5.5
八代市	[0(13)]*	5.0(20)	-	-	3.1(32)	0	2.7

注) 採集時期は、9月上旬。()内の数値は、検定数。
 平年値は2012年から2016年のうち、欠測年を除く3～5カ年平均。
 ※本年の八代市は検定数が少ないため、平年値との比較はできない。

表 3 屋外保毒虫数の試算

地点名	日あたり保毒虫数 (頭/日/枚)						平年値
	本年	2016	2015	2014	2013	2012	
熊本市	0.07	0.04	-	0.26	0.02	0	0.08
玉名市	0.03	0.54	0.02	0.28	0.08	0	0.18
八代市	[0]*	0.09	-	-	0.00	0	0.03

注) 保毒虫数=捕獲頭数×保毒虫率
 捕獲頭数：表1のとおり
 保毒虫率：表2のとおり
 平年値は2012年から2016年のうち、欠測年を除く3～5カ年平均。
 ※本年の八代市は保毒虫検定数が少ないため、平年値との比較はできない。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)
 担当：坂本、斉藤 TEL : 096-248-6490